

総合的な学習「探究基礎」テキスト

←—————

探 究 基 礎 通 信

—————→

2019年度版

大阪府立千里高等学校

国際文化科 1年

探究基礎通信

目 次

この冊子は大阪府立千里高等学校国際文化科1年生の「総合的な学習」である「探究基礎」の授業で使用する自主作成の教材「探究基礎通信」をまとめたものです。

「探究」は、課題を知る→知識を獲得する→知識を応用し課題解決の仮説を立てる→仮説を検証する→解決案を提示する というプロセスを学ぶ学習です。

探究基礎通信 1	何を学ぶのか ～ SDGs	p.1
探究基礎通信 2	どのように学ぶのか ～ 課題の設定から解決へ	p.4
探究基礎通信 3	読解力を身につける ～ 文章の読み取り	p.8
探究基礎通信 4	読解力を身につける ～ 表・グラフの読み取り	p.11
探究基礎通信 5	チームで考える ～ ディベートとはどのような取り組みか	p.15
探究基礎通信 6A	チームで考える ～ ディベート対戦に向けて1 個人活動	p.21
探究基礎通信 6B	チームで考える ～ ディベート対戦に向けて2 班活動	p.26
探究基礎通信 7	チームで考える ～ ディベート対戦に向けての立論原稿作り	p.30
探究基礎通信 8	ディベート対戦 ～評価 第3のアイデア構築	p.34
探究基礎通信 9	チームで考える ～ ディベート 第3のアイデアとは	p.36
探究基礎通信 10	課題の発見 ～ 課題はどのように設定するのか	p.38
探究基礎通信 11	課題の解決へ向けて ～ アイデアの構築	p.43
探究基礎通信 12	課題の解決へ向けて ～ 根拠を明らかにする	p.47
探究基礎通信 13	課題の解決へ向けて ～ プレゼンテーション	p.51
<引用のルール> と <参考文献・引用文献の示し方>		p.55

■ 探究基礎通信 1 何を学ぶのか SDGs

国際文化科では1年生後期に「探究基礎」そして2年生では「探究」の授業があります。この授業の特色を二つの視点から紹介します。

1 何に取り組むか

本校は2015年度、文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の指定を受けました。大阪府の公立高校では他に5校が指定を受けています。以下は文部科学省のSGHに関するWEBサイトよりの引用です。（www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgh/）

1. 目的 急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

2. 事業概要 国際化を進める国内の大学のほか、企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める。

Q1 「グローバル化」とは何でしょう。調べましょう。

「国家」対「国家」という概念ではないところに「インターナショナル」との違いがあります。グローバルな課題の一例として日本でも大量に消費されている「パーム油」や「カカオ」の問題がありました。

中国で大気汚染物質PM2.5が発生し、それが日本にも飛来しています。石炭の燃焼や自動車排気などが主な原因とされ、日本は中国の被害者のようにとらえるむきもあります。しかしこれを国家対国家の問題ととらえていては解決には向かいません。身につける衣料に一切中国製品がないという人はいるのでしょうか。大気汚染を引き起こす産業活動のおかげで我々は手ごろな値段の製品を手に入れることができます。安価な製品と大気汚染は直接間接につながっているのです。中国に対し「何とかしろ」と他人ぶって批判するのではなく、自分とつながった課題としてとらえなければならないのです。これがグローバルな視点です。



Q2 「パーム油」の問題の、どのような点がグローバルな問題といえるのでしょうか。

地球規模の課題は自分とつながっている、自分はどう向き合うのか。これがグローバルな課題に対する出発点です。

「何に取り組むか」の対象は以上のように「グローバルな課題」です。「グローバルな課題」とは具体的にどのようなものなのでしょう。そこで指標となるものが「SDGs」です。

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます（外務省ウェブサイトより）



SDGs 持続可能な開発目標 国連開発計画（UNDP）

<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html>

のウェブサイトを見て17のゴールから一つ選び、その解説を参考にしてどのような課題に関心があるのかをまとめなさい。

「探究基礎」「探究」は、こうしたグローバルな課題の解決をさぐる取り組みを中心に進めていきます。

■ 探究基礎通信 2 どのように学ぶのか ～ 課題の設定から解決へ

何に取り組むか。「グローバルな課題」を中心に取り組むのですが、対象を決めただけで研究を進めてもうまくはいかないでしょう。水泳に興味を持ち、とりあえず水に入ってあれこれためしても上達しないのと同じです。

どのようにすれば前に進むのか、どのようにすれば疲れないのか、どのようにすれば息継ぎができるのか。「どのように取り組むか」を学ばないといつまでたっても泳げるようにはなりません。研究も同じです。「何を」という対象を「どのように」処理していくのかを知る必要があります。

2 どのように取り組むのか

ではグローバルな課題に「どのように」取り組めばよいのでしょうか。文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」の説明の中に「社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け」という表現があります。国際的素養には教養や語学力のみならず、「問題解決力」が大切だと言っています。この「問題解決」が「どのように取り組むのか」に深く関わっています。

問題解決力とはどのような力なのでしょう。「問題」とは「課題」と置き換えられます。「環境破壊を食い止めるにはどうすればよいのか」「労働差別を阻止するにはどうすればよいのか」などの「課題」とどう向き合えばよいのか。もちろん要求されているのは「解決案」です。では「課題」から「解決」の間の過程とはどのようなものなのでしょう。

単純化すると、「課題の原因を探り、解決のための様々なアイデア(仮説)を立て、それが有効か否かの検証を繰り返し、現実的で効果的な解決案を導き出す」ということであり、「どのように取り組むか」の内容です。これを具体的な課題に当てはめてみましょう。

「森林破壊につながるエビの養殖池の拡大の原因を探り、日本へのエビの供給を維持しつつ森林を取り戻すアイデア(仮説)を立て、実現可能性の検証を繰り返し、有効な解決案を提示し、実行に移す」という課題解決の過程が想定されます。この過程に取り組む力が「問題解決力」です。



次のような取り組みは「課題解決」とは言えません。なぜなのかは分かりますね。

「森林破壊の実態を調べる→農園や養殖池確保のため森林が破壊され、種の絶滅や気候変動を引き起こしている→先進国での消費がそれを推し進めているということがわかった→森林破壊の実態とどの国が多く消費しているかを報告する」

Q1 上のような取り組みはどのような点で「課題解決」とは言えないのでしょうか。また、どう手直すべきでしょうか。

たとえ解決策が提示されていても次のようなものはどうでしょう。

2015年6月に改正公職選挙法が衆議院で可決され、それまで20歳からだった選挙権が18歳からに引き下げられました。とはいえ2017年10月の衆議院議員選挙では18歳の投票率は50.74%、19歳は32.34%（全体では53.68%）でした。

どうすれば若い世代の投票率を高めることができるのでしょうか。この課題に対する解決案として、「投票すればお土産(商品券のような)を与えるとよい」「高校で投票できるようにすればよい」といった提案が出たとしましょう。



<http://www.tfm.co.jp/tohyofm/>より

Q2 これらの解決案の妥当性についてあなたはどのように思いますか。そう思う根拠(理由)も書きましょう。

安易な提案では現実に対応できません。その課題がなぜ発生するのか。その原因を深く見極めたうえで解決のための仮説を立てる必要があります。若い世代の投票率を高める提案をするためには、まず、なぜ若者の投票率が低いのかの原因を把握する必要があります。

Q3 若者の投票率が低い原因についてまとめなさい。

Q4 解決案を考えなさい。

課題解決のためのまとめ

「何を (WHAT)」が視野にあるだけでは、いわゆる「調べ学習 (すでに明らかになっていることを収集すること)」に終始してしまいます。「どのように (HOW) = 課題をどのように解決するかを、仮説と検証を繰り返すこと」という視点を取り入れることで本来の「探究」に近づくことができます。

課題から始める

課題とは「どのようにすれば～」という疑問文である

課題を解決するには

なぜそのような課題が発生しているのか(原因の追求)

課題を克服するにはどのようなことが有効か (仮説)

仮説は本当に有効なのか (検証)

という過程をたどることが必要です。仮説の検証は 1 度だけでは終わりません。どの仮説が最も有効なのか、検証は繰り返されなければなりません。それを経て一定の解決案が導き出せるのです。

この「何を・どのように」という視点を持って地球規模ではあるが自分の暮らしと密接につながっている課題の解決に少しでも近づけるように取り組みましょう。



Q5 「地球規模ではあるが自分の暮らしと密接につながっている課題 (グローバルな課題)」にはどのようなことが考えられますか。列挙しましょう。

- *
- *
- *
- *
- *
- *
- *

課題解決のためには 頭の中で考えるだけではなく、「現場をじかに体験する」ということが有効です。しかしグローバルな問題に対し、現場に赴いて考えるというのはかなり困難です。またたとえ現場にいたにせよ、その事態を正しく判断するためには、しっかりとした予備知識が必要です。予備知識とは、その課題にまつわるデータや、自分より先にされた研究の成果を知ることです。

研究の成果を知るためには文章を正確に読み取るということが必要です。ヒューライツ大阪のガイドブック「人を大切に」を使って読み取りの練習をしましょう。



第1章「働く人の人権（P7）」を開きなさい。

問1 「1-1 職場で働く人の多様性」の文章の中で最も大切な部分を抜き出ささい。またそこを抜き出した理由を説明しなさい。（重要箇所発見問題）

抜き出し

理由

* ポイント

問2 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題（1）「非正規労働者と正規労働者の処遇」に「不合理な格差（右13行目）とあるが、「不合理な格差」とはこの場合具体的にどういうことか。説明しなさい。（言い換え問題）

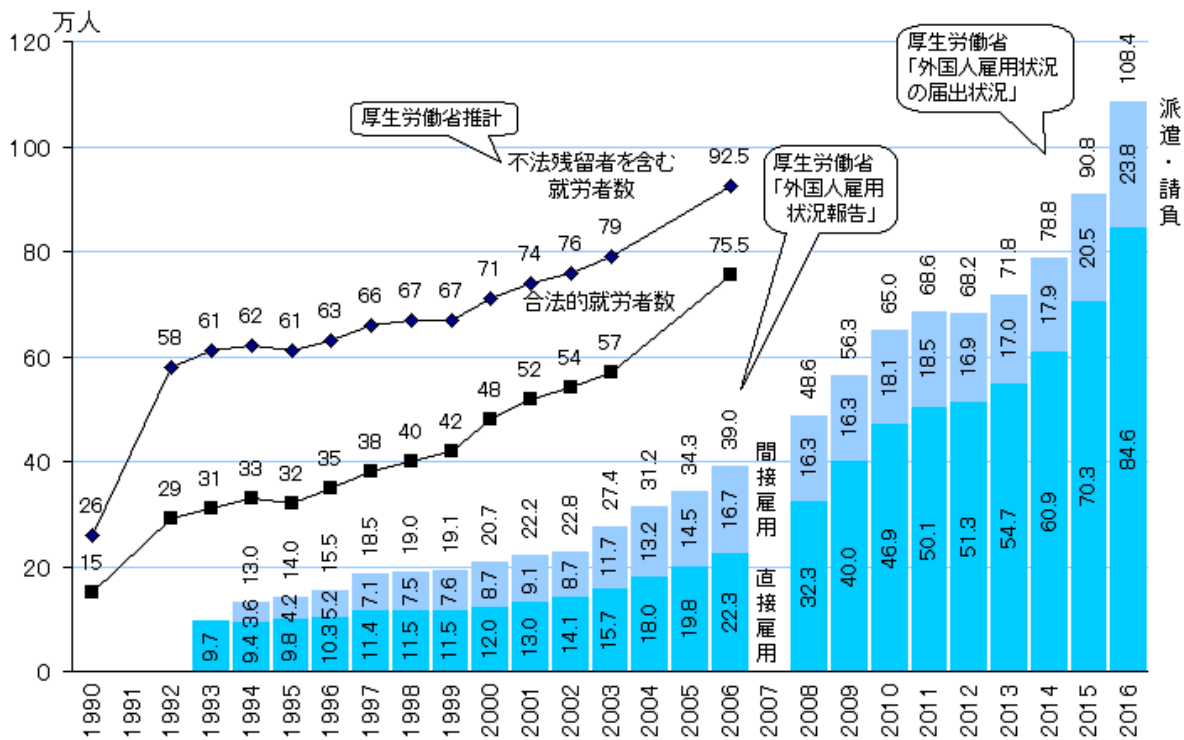
* ポイント

問3 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (2)「ジェンダー平等」に「女性に対する差別の問題は、実は男性の働き方の問題でもあります。」(第3段落)とあるが、どのような点で、女性の差別は女性だけでなく男性の問題であるといえるのか。あなたの考えを書きなさい。(考えをまとめる問題)

問4 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (3)外国人労働者」に「日本の企業では外国籍の人が多く働いています。」とあるが、なぜ日本には外国籍の人も多く働いているのか。ここに書かれていること以外の情報を集めて次ページにまとめなさい。(発展的に考える問題)

(参考) 図録▽外国人労働者数の推移 www2ttcn.ne.jp より

外国人労働者数の推移



(注) 厚生労働省研究会推計の外国人労働者は、「外交」、「公用」、「研修」及び「永住者」(特別永住者を含む。)以外が対象。外国人雇用状況報告も同様。外国人雇用状況の届出状況では特別永住者、外交、公用以外。
 ・厚生労働省推計: 不法残留者以外の不法就労も相当あるがこの推計結果には含まれていない。
 ・外国人雇用状況報告: 従業員50人以上規模の事業所については全事業所、また、従業員49人以下規模の事業所については一部の事業所(各地域の実情や行政上の必要性に応じて選定)を対象に、公共職業安定所が報告を求めているもの。間接雇用とは労働者派遣、請負等により事業所内で就労している。
 ・外国人雇用状況の届出状況: 全ての事業主に届け出義務

(資料) 2003年までの厚生労働省推計は厚生労働省「外国人労働者の雇用管理のあり方に関する研究会」資料(2004.1.16)他(原則、年末現在)、2006年は厚生労働省職業安定局「6月の外国人労働者問題啓発月間の実施について」(2008.5.30)、棒グラフは厚生労働省「外国人雇用状況報告」(各年6月1日現在)、及び「外国人雇用状況の届出状況について」(10月末現在)

問 4 解答欄

問 5 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (5) 仕事を進める中で」の「①採用における差別の問題」の文章を二つの部分に分けるとどこで分かりますか。後半のはじめの 5 文字を抜き出さない。またそう分けた理由を答えなさい。

--	--	--	--	--

理由

* ポイント

課題解決は絵空事ではいけません。通信 2 でも取り上げましたが、若い世代の投票率を上げるために「投票所に来たら商品券がもらえる」という提案はまさに絵空事です。20 歳の人口約 100 万人のうち 30% が投票所に来たと仮定し、500 円の商品券を渡したら $500 \text{ 円} \times 300,000$ の経費が必要です。「保育所や老人ホームを増やせばいい」というのも現状では絵空事に近いことが分かりますね。

理想的な解決策はえてして絵空事に近いものです。現実的な解決案には完全なものはありません。しかし、不完全な案を積み上げることが解決への確実な一歩なのです。そのためにも資料をしっかりと読み込み理解するという地味な作業が大切です。

今回は文章の読み取りでしたが次回は表やグラフの読み取りをしましょう。

■ 探究基礎通信 4 読解力を身につける ～ 表・グラフの読み取り

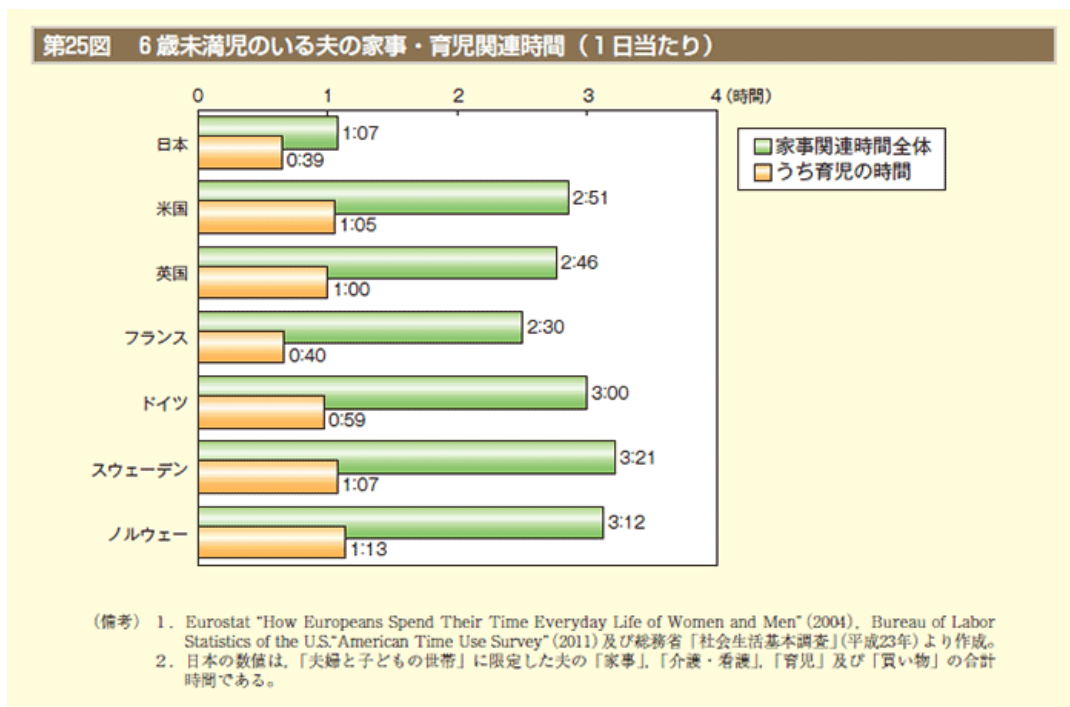
表やグラフを読み取る練習をします。当たり前ですが表やグラフは文章で説明されていません。ですが視覚的に情報を伝えるという面では文章より優れています。とはいえ読み取ることが出来なければ宝の持ち腐れです。表・グラフの読み取りに関する問題に取り組みましょう。解答は箇条書きでもかまいません。

問1 少し古いですが「日本の夫婦の生活時間についてのデータです。この表から読み取れることを文章でまとめなさい。

		食事・睡眠など	仕事・通勤など	家事・育児など
夫・妻がフルタイム労働	夫	10h06m	8h19m	0h33m
	妻	9h55m	8h36m	3h25m
夫がフルタイム・妻が家事専業	夫	10h16m	7h49m	0h39m
	妻	10h20m	0h04分	6h52m

総務省 社会生活基本調査 平成18年 より 数字は1日当たりの時間配分

問2 A 以下のグラフから読み取れること（事実）をまとめなさい。

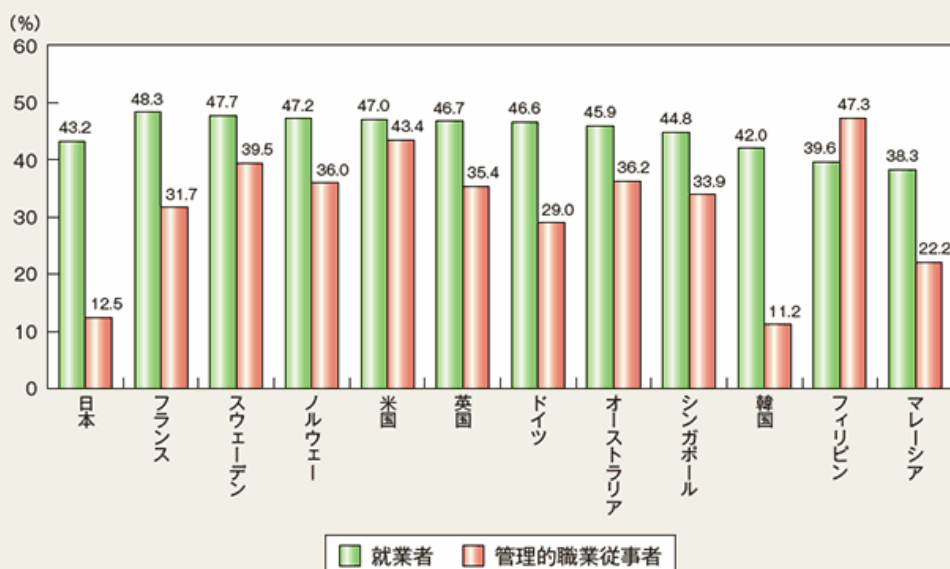


<http://town.chupea.jp/chumom/mamablog/bento/ikumen/no2vs.html> より

B 他の国との違いの原因は何だと思いませんか。

問3 以下のグラフの、左は就業者のうち女性が占める割合、右は管理職のうち女性が占める割合です。左端が日本、右から2番目がフィリピンです。フィリピンでは女性管理職が男性管理職を上回っています。なぜなのか。フィリピンの状況についてウェブサイト調べてみましょう。

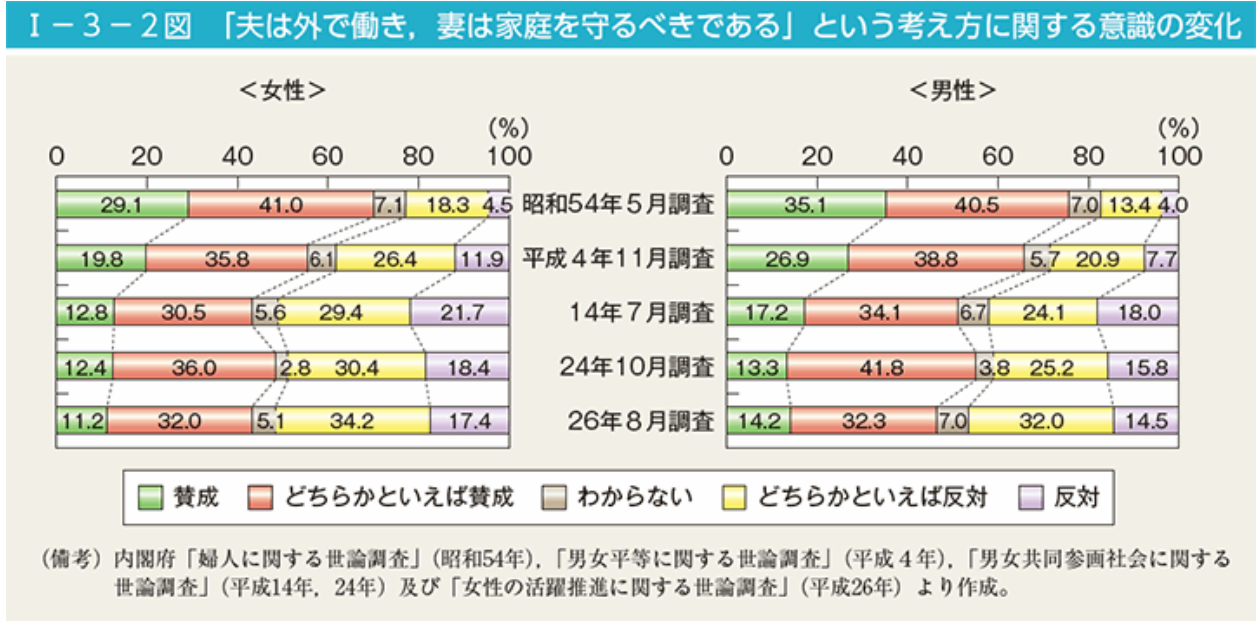
I-2-13図 就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合（国際比較）



- (備考) 1. 総務省「労働力調査（基本集計）」（平成27年），その他の国はILO「ILOSTAT」より作成。
2. 日本，フランス，スウェーデン，ノルウェー及び英国は2015（平成27）年，米国は2013（平成25）年，その他の国は2014（平成26）年の値。
3. 総務省「労働力調査」では、「管理的職業従事者」とは，就業者のうち，会社役員，企業の課長相当職以上，管理的公務員等。また，「管理的職業従事者」の定義は国によって異なる。

http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h28/zentai/html/honpen/b1_s02_02.html

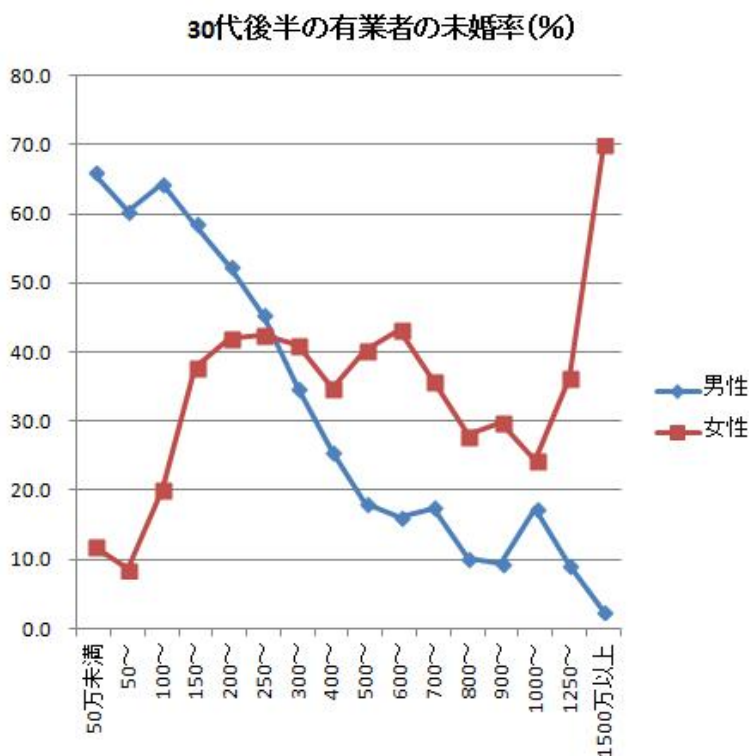
問4 次のグラフは意識の変化を示したものです。どのようなことが読み取れますか。グラフの下に書きなさい。



http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h28/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-02.html

問5 横軸は収入です。縦軸はその収入の未婚率です。

- A 読み取れること(事実)をまとめましょう。
 - B 読み取ったことから類推できることをまとめましょう。
- いずれもグラフの右側に書きなさい。



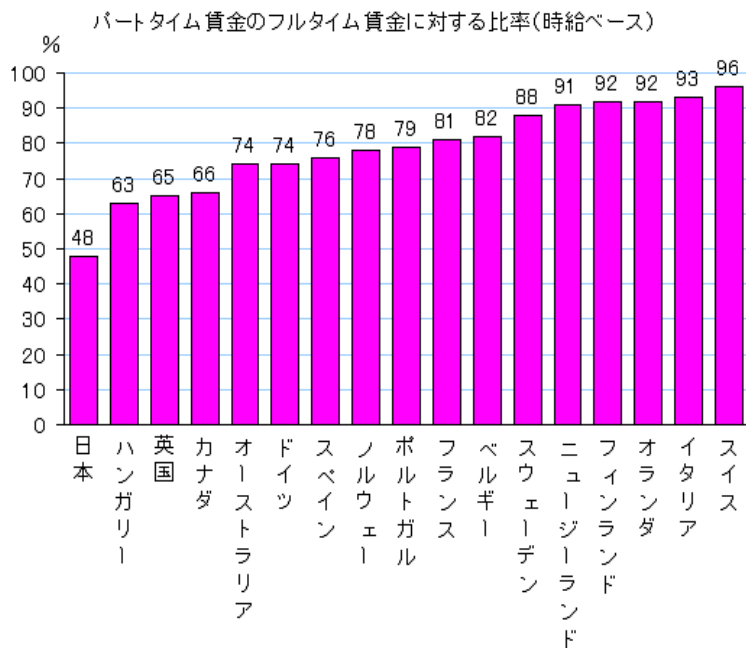
問6 パートタイム賃金が日本では低く抑えられています。

A このことからどのような問題が生じていると考えられますか。

問5のグラフとも絡ませて考え、右側にまとめましょう。

B また、なぜ賃金が低く抑えられているのでしょうか。

パートタイム賃金の国際比較(2003年)



(注)スウェーデンは技能・労務職とそれ以外の値の単純平均

(資料)OECD, Taxing Wages 2004/2005: 2005 Edition

次回からは「ディベートに挑戦」です。

■ 探究基礎通信 5 チームで考える ～ ディベートとはどのような取り組みか

これからは「ディベート」に取り組みます。これまで環境・労働・人権問題に触れつつ、「課題の発見と解決（何を・どのように）」そして「文章・表・グラフの読みとり方」と学習を進めてきました。基本的に個人単位の学習でした。ディベートは集団での共同作業です。文章・表・グラフから正確に情報を読み取り、「何を・どのように解決するか」を考え・話し合い・意見調整をし、討論します。



肯定側

否定側

- 1 ディベートとは 「大阪府は中学校での給食を実施すべきである 是か非か（自由選択制ではなく一律実施と仮定する）」というテーマでディベートを行うという仮定で説明します。実際はこのテーマではありません。

ディベートは「社会的な問題について 異なる立場（肯定・否定）に分かれて議論し、対戦するもの」です。今回は3～4人のチームを講座で6つ作り、3チームを肯定側（中学校給食実施に賛成）・3チームを否定側（中学校給食実施に反対）とし、3つの対戦を行う。対戦している2チーム以外の4チームの人は、2チームが審判を担当し、2チームが両チームの良いところを融合させた第3のアイデアを構築する「第3のアイデア構築」を担当します。「第3のアイデア構築」については後で詳しく説明します。

～対戦方法～ 野球と同じで表と裏がある。今回は「立論」「質問」「反論」の3回のショートカットバージョンであるが、本来はさらに対戦場面が多い。

①回 <自らの立場を根拠とともに主張

表 肯定側立論:2分

裏 否定側立論:2分

【作戦タイム】:2分<相手への質問をまとめる

②回 <相手の立論への質問。

表 否定側質問及び肯定側回答:3分

裏 肯定側質問及び否定側回答:3分

【作戦タイム】:2分<反論をまとめる

③回 <相手の立論に対して反論し、自分の側のメリット（デメリット）が勝っていることを念押し

表 否定側反論:3分

裏 肯定側反論:3分

【ノーサイド】:2分<握手・審査集計

- 2 立論のしかた…「大阪府の中学校での給食実施という問題に対し肯定（否定）の立場から立論を行います」で始める。「たしかに…」で反対の立場のメリットも紹介しながら一定持ち上げる（。「しかし…」のあと、根拠を複数、詳しく述べる。その述べ方として、根拠を裏付ける資料（各自インターネットなどで調べたもの）を紹介すると良いでしょう。次の発表例を参考にしましょう。（_____部分は決まり文句なので必ず使うこと）

(例) 「大阪府の中学校での給食実施という問題に対し肯定の立場から立論を行います。給食のメリットとしてまず、中学生に必要な栄養素を不足なく摂取することができます。例えば～～～（調べたデータな

どを紹介する) ~~~。次に~~~。さらに~~~。(根拠は3つくらい出す) このようなことから、中学校給食の実施に賛成です。以上で肯定(否定)側の立論を終わります。

*立論で根拠の全てを出し切ってしまうと最終弁論で言うことが無くなるので、最終弁論用の「隠し玉」根拠を残しておくのも一手。

3 質問のしかた…(例)「肯定側(否定側)から否定側(肯定側)に対し質問を行います。一つ目は……。二つ目は……。」と質問する。質問が終われば「以上で質問を終わります」

*相手の立論を突くような質問を考える。「~~とおっしゃいましたが、~~のような問題が生じるのではないのでしょうか」など。

質問された側はグループ内で短く討議し、或いは答えられる者が答える。

*質問を受けた側は、分からなかった場合は正直に「わかりません」「調べていません」と答える。

4 反論のしかた…(例)「大阪府の中学校での給食実施という問題に対し否定(肯定)の立場からの反論を行います」で始める。相手の立論に反論し、自分の側のメリット(デメリット)がまざっていることを念押しする。「肯定の方は給食における教育効果を強調されていましたが、配膳指導、食べ残し指導など、世界で最も忙しいと言われる日本の中学校の教員にこれ以上の負担を強いることは他の指導面にも影響を及ぼします。食事という基本的な生活習慣に関しては学校がアドバイスをすることはあっても家庭の仕事と考えるべきではないでしょうか。よって中学での給食には反対です。以上で否定(肯定)側の反論を終わります。ありがとうございました。」

5 ディベートの心構え

- 自分が個人的には反対でも賛成の立場で主張することもあり得る。賛成か反対かが重要なのではなく説得力のある発言をすることが重要。自分の意見と違う立場にたっても冷静に取り組む。
- 対戦中は冷静に。興奮して相手をなじったりしてはいけません。終了後は握手で健闘を讃えあう。
- 対戦中はひとりに偏ることなく全員が発言できるように、立論途中で交代するなど工夫する。
- 相手の立論と噛み合った反論を行うこと。

6 根拠が大切

給食問題なら「好きなものを食べたい。だから反対」「家の人が弁当を作らなくてよい。だから賛成」などは主観的な好き嫌いによるもので本質を踏まえた意見ではない。

- 1 給食にはどのような教育的効果があるのか。
- 2 大阪府・教育委員会はなぜ実施を進めようとしているのか。またどのような取組みをしているのか。
- 3 他の都道府県での実施状況はどうなっているのか。
- 4 専門家(教育関係者、栄養の関係者など)の意見はどのようなものか。
- 5 多くの人はどのようにとらえているのか。

意見は100%自分の中から生まれ出てくるものではない。十分な関連知識を得、他者の意見を知った上で組み立てられるものである。そのために上にあげた1~5のような項目を調べつくす必要がある。でないと「中学校給食に対する、表面的で私的な感想」に終わってしまう。

調べるには やはりインターネットが有効である。だが、信頼度の低いサイトもある。とくに誰でもが書き込めるサイトなどを参考にしてはいけない。官公庁などの公式サイトで基本的な見解・経緯をまず確認し、信頼に足る情報源であるかを確認すること(大学の研究機関など)。

また、立論の場合、表やグラフなど、数値化されたものをもとにおこなうことで説得力を増す。

7 チーム編成

3～4人一組 肯定・否定それぞれ6チーム編成後、取り組みを決める。(否定肯定はくじで決める)
2チームが対戦しているとき、残りの4チームは、「審判」(2チーム)と「第3のアイデア構築」(2チーム)を担当します。審判は下のような採点表に記入します。

*審判表見本

チーム	立論	質問	反論	合計
A (肯定)	点	点	点	点
B (否定)	点	点	点	点
アドバイス				

満点各 10 点 合計 30 点

評価基準：立論 肯定否定の根拠が確かな証拠に基づいており説得力があるか
質問 相手の立論の弱点を突くような内容になっているか
反論 相手の立論に対する反論に説得力があるか

「第3のアイデア」とは。

ディベートは肯定・否定で対戦しますが、実際の世の中のできごとは肯定否定・白黒でばっさり割り切れるものではありません。給食の問題にしても、肯定的立場では見落とされてしまう、アレルギーへの対応などから、「給食は実施することが望ましいが、アレルギー対応上、考慮すべき食品と生徒を把握し、代替食材を予め生徒と保護者に連絡できる体制を作る」、否定的立場では見落とされがちな「弁当」の持つ有意性を失わせないために、「弁当デイを設け、生徒自身が家族と協力して弁当を持参する日を設ける」といった両者の良いところを織り交ぜた現実的な解決案が必要です。現実の世の中では 是か非か と 割り切れるものではありませんから、より現実的なこの「第3のアイデア」を生み出すことが実は大切なのです。「第3のアイデア」を担当するときは以下のような記入用紙の1～4を対戦中あるいは対戦直後に記入し、その後5をチームで考え、まとめましょう。

*記入用紙見本

テーマ 「大阪府は中学校での給食を実施すべきである」	
1 肯定側の根拠	家庭で弁当を用意することが難しいなか、中学生に必要な栄養を摂取すること
2 肯定側の問題点	アレルギー
3 否定側の根拠	アレルギーの対応が煩雑。同じものを食べることの違和感。体格差による量の違い
4 否定側の問題点	弁当を作りにくい家庭、コンビニ弁当一辺倒
5 両者を融合させた解決案	アレルギーへの対応などから、給食は実施することが望ましいが、考慮すべき食品と生徒を把握し、代替食材を予め生徒と保護者に連絡できる体制を作る」、否定的立場では見落とされがちな「弁当」の持つ有意性を失わせないために、「弁当デイを設け、生徒自身が家族と協力して弁当を持参する日を設ける

8 これからの予定

1組

- (月 日) 今日 デイバートについて
- (月 日) デイバート班活動 資料収集 協議
- (月 日) //
- (月 日) デイバート対戦 相互評価 解決案作り
- (月 日) デイバート振り返り 解決案発表

3組

- (月 日) 今日 デイバートについて
- (月 日) デイバート班活動 資料収集 協議
- (月 日) //
- (月 日) デイバート対戦 相互評価 解決案作り
- (月 日) デイバート振り返り 解決案発表

5組

- (月 日) 今日 デイバートについて
- (月 日) デイバート班活動 資料収集 協議
- (月 日) //
- (月 日) デイバート対戦 相互評価 解決案作り
- (月 日) デイバート振り返り 解決案発表

7組

- (月 日) 今日 デイバートについて
- (月 日) デイバート班活動 資料収集 協議
- (月 日) //
- (月 日) デイバート対戦 相互評価 解決案作り
- (月 日) デイバート振り返り 解決案発表

今日これから3つのデイバートテーマを発表します。1つのテーマにつき肯定否定の2チーム、合計6チームに分けます。テーマと肯定否定はくじで決めます。

テーマA

テーマB

テーマC

9 班分けをし、テーマと肯定否定、審判・第3のアイデアを担当するテーマを決めます。先生の指示に従いなさい。

①班分け 自分は_____ 班

②自分の担当テーマと否定肯定 テーマ：_____

肯定 否定

③自分が審判・第3のアイデアを担当するテーマ

審判するテーマ_____

第3のアイデアを提案するテーマ_____

対戦	テーマA		テーマB		テーマC	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
	班	班	班	班	班	班
審判	班		班		班	
第3のアイデア	班		班		班	

9 ディベート準備を怠るな

まずは自分が対戦するテーマに関する情報収集ですが、自分が肯定側だからといってその立場に偏った情報だけを集めてはいけません。対戦ですから相手の出方を予想しなければなりません。立場に関係なく、テーマのメリットとデメリットの両方を知っておかなくてはなりません。

肯定・否定の両方の立場のメリット・デメリットを個人或いは班の仲間とでタブレットなども使い自主的に調べておきなさい。

自分の担当するテーマが中心ですが、審判・第3のアイデアで全てのテーマに全員が関わることになります。できれば他のテーマについても調べておきなさい。

* 2月に開催される「千里フェスタ」では各論題の優秀チームどうしの対戦を予定しています。

以下の表は課題ではありません。しかし、ディベートの授業になってから、いちからスタートしていると、たぶんそのチームは負けます。ですから、自主的に表を埋めて準備しておきなさい。

テーマ
メリット
デメリット
自分の班の立場から最も根拠にしたい事柄

■ 探究基礎通信 6A 1人に1枚 ディベート～ 対戦に向けて1 個人活動

ディベートの準備に取り組みます。対戦本番までは今日を含めて、概ね4時間あります。取り組むべきことは以下の通りです。なお、対戦で議論が互いに噛み合うように、どのようなことを肯定・否定のそれぞれの班が考えているのかのあらましを対戦前の授業で伝え合います。

取り組み 1 (本日 1 時間目) 論題について、①現状はどうか、②そうすることのメリットとデメリット、を情報をもとに個人で確認します。(2時間目は班で協議して整理する。)

例えば…

「福祉介護・保育の仕事には積極的に外国人を雇用すべきである」という論題だと

- ①マレーシア等から来た人たちに教育が行われ現場に派遣するというシステムが進められている
- ②(メ)労働力不足の解消につながる、(テ)文化の違いからトラブルにいたるケースが想定される

「国際文化科の生徒には留学あるいは海外ボランティアを義務づける」という論題だと

- ①数名が行く程度である
- ②(メ)実体験に基づく思考につながる、(テ)全員が国際社会に出ることを進路希望とはしていない

「公立の中学・高校は統合し中高一貫校にすべきである (中学で入試を取り入れる)」

という論題だと

- ①私立では進んでいるが公立は管轄庁の違いもあり一般化していない
- ②(メ)カリキュラムに連続性を持たせられる、(テ)中学での受験は小学生に負担を強いる

これらは一例に過ぎません。情報の収集を行いましょう。そのうえで、メリット・デメリットを整理しましょう。当たり前ですが、肯定側だからメリットだけを挙げればよいではありません。メリット・デメリットはすべての事象が両方をもっています。肯定側なら、デメリットを知り、それよりもメリットの方を優先させることが社会にとって有益であるというように説明しなければなりません。否定側も同じです。だから両方を知らなければならないのです。

それでは ①現状はどうか、と②メリット・デメリットの整理を行いましょう。メリット・デメリットはサイトに書いてあるものばかりではなく、自分たちの考えも加えて文章化しましょう。個人でまず取り組み、個人シート1に書き込みます。書き込む内容は、1＝現状把握、2＝その課題のどのような点が社会で議論されているのか、です。2時間目はそれをもとに、机を向かい合わせて班会議をおこない、グループシート1にまとめていきます。

現状を把握するときは、数値で表されたデータ・表・グラフなどは対戦時の重要な論拠となります。書き写せる場合は書き写し、どうしてもプリントアウトしたい場合は先生に尋ね、画面をみていただき、認めていただいたうえでしなさい。何となく使えそう、で無駄に、また無断でプリントアウトしてはいけません。プリントアウトしたものにはウェブサイト名やアドレスを記入しておきなさい。対戦で使う場合、出所を明らかにしないのはルール違反になります。

* グラフや表を模造紙に書いて対戦本番で示すと効果があります。

個人での情報収集（**個人シート1**）が済めば、2時間目はそれを持ち寄って班で整理し、**グループシート1**に記入しましょう。そのあとは次のように取り組んでいきます。

取り組み2（本日2時間目） **グループシート1**をもとに立論原稿を作る

なお、次回以降の予定は以下の通りです

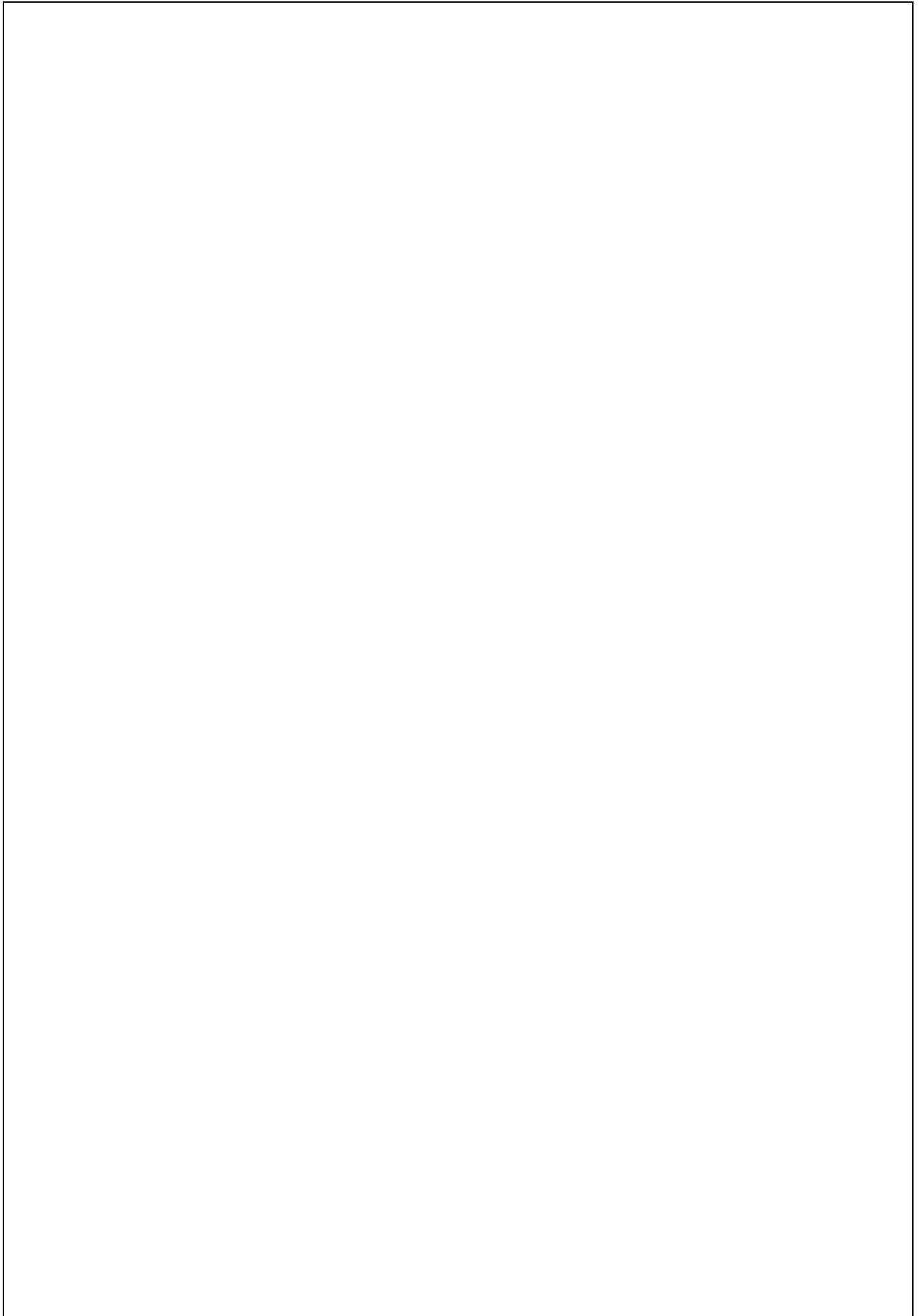
次回 1 時間目	立論のポイントを対戦チームどうして伝えあう
次回 1 時間目～2 時間目	相手への質問を考え、質問原稿、反論原稿を作る
次々回	ディベート本番

取り組み1 個人シート1 現状はどうか、 メリットとデメリットは

テーマ

肯定 ・ 否定

1 現状把握 データ（数値・表やグラフ、そこから読みとれることなども入れる。サイト名・アドレスなどを記録する。）



2 メリットとデメリット

- 調べて見つけたことには、はじめに○をつけ、自分で考えたことには、★をつける
- メリット・デメリットを証明するデータなども併せて書きましょう。

箇条書き

メリット

デメリット

＊注意

個人シートでのまとめをもとに、次の時間は班で立論原稿を作ります。

立論とは、

「自分たちの主張が正しいということを根拠（メリット或いはデメリット）を示して述べること」です。

- ・肯定側の根拠は、その新しい政策や試みを実施することによって生じるメリット
- ・否定側の根拠は、その新しい政策や試みを実施することによって生じるデメリット

例えば、今回の論題ではありませんが、「公立小学校の学校選択制を導入すべき」なら、次のような根拠が考えられます。

《肯定側》 メリット…「子どもの個性に合った環境を選ぶことができる」など

《否定側》 デメリット…「学校間の序列化を生み出す」など

但し、メリット或いはデメリットを示しても、それが確かなものでなくては説得力を持ちません。入学前から「子どもに合った環境」と断定できるのか。ほんとうに「序列化」を生むのか。何となく、とか、たぶん、ではいけません。

そこで必要になってくるのが「データ」です。学校選択制によって、学校に行きたがらない子どもが本当に減ったのか、或いは近隣の学校間で本当に「序列化」されてしまうような過去の例があるのか、といった「データ」を挙げることで根拠が説得力を持ちますし、対戦相手から攻められたときにも回答することができます。「データ」を伴った根拠を作り上げましょう。根拠は3つが標準です。

取り組み2へ進みます。個人でまとめた内容をもとに班で話し合いをし、**グループシート1**をまとめましょう。

■ 探究基礎通信 6のB 班に1枚 ディベート ～ 対戦に向けて2 班活動

取り組み2 グループシート1 メリット・デメリットを文章化し、それを証明するデータをまとめなさい。

テーマ _____ 肯定 ・ 否定

班員名 _____

メリット（肯定側）・デメリット（否定側） を文章化 1

データ

メリット（肯定側）・デメリット（否定側）を文章化 2

データ

メリット（肯定側）・デメリット（否定側）を文章化 3

データ

グループシート2 相手チームへの対応

自分の主張だけではディベートになりません。対戦チームが立論で出すであろうメリット或いはデメリットを予想し、反論したうえで、自分たちの班のメリット或いはデメリットがまさっていることを「最終弁論」で伝えなければいけません。肯定班はデメリット 否定班はメリットを挙げ、それにどう反論するかを考えておきましょう。

テーマ _____ 肯定 ・ 否定

予想される相手側の根拠

1

対応策

2

対応策

3

対応策

■ 探究基礎通信 7 チームで考える ～ ディベート対戦に向けての立論原稿作り

この時間にするこ

- 1 議論が噛み合うように立論の根拠（複数）を簡単にお互いに伝えあう
- 2 次回のディベート本番に向けて、立論と反論の原稿を作る
- 3 本番で使用する資料を決める

それでは今日の作業に入ります。班どうして机をくっつけましょう。配置は対戦相手と隣同士になるようにしなさい。

1. 根拠を伝えあう

立論の根拠を事前に伝えあうことで本番で話が噛み合うようにします。箇条書きにし、対戦相手と伝えあいなさい。まず、話し合っ整理し、自分たちの根拠を簡単に箇条書きにしなさい。（約3分）

例)

小学校での英語教育 肯定

- 1 グローバル化の中で早期英語教育は必要
- 2 英語を使えないと国際競争に敗れる
- 3 多様な考え方・価値観を学べる

1
2
3

箇条書きができたら対戦相手と伝えあいなさい。対戦相手の根拠を聴いて書きなさい。（3分）

1
2
3

それでは、対戦相手の根拠も踏まえたうえで自分たちの立論と反論の原稿を作ります。これができていないと次回の対戦ができません。集中してやりなさい。もし時間内にできなければ休み時間などを利用して仕上げなければなりません。（なお、反論は本番中に少し修正することもあります）

2. 立論と反論の原稿を作る

立論・反論の原稿の書き方は以前に探究通信6でも伝えましたが再度確認します。以下のようなパターンにはめて発言します。どの班もこのパターンに揃えましょう。

まず、立論

「英語教育を小学校3年生から実施する」という問題に対し、肯定の立場から立論を行います。メリットとしてまず、小さい時から英会話を学び、多くの国民が英語で会話できるようになることにより、国際社会における経済競争で後れを取らずに済む、という点が挙げられます。山陽経済大学の〇〇〇教授による2007年の研究によりますと・・・・・・・・・・・・。このように英会話能力の取得は国際商取引では必要な手段といえるでしょう。

次に（二番目に）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

さらに（三番目に）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

以上の点から「英語教育を小学校3年生から実施する」ことに対し賛成します。これで肯定側の立論を終わります。ありがとうございました。

根拠を列挙するが、それぞれの根拠には、なぜそれが根拠として説得力を持つのかを、できれば先行研究などを引用しながら説明します。引用した場合は必ず引用元を伝えなければなりません。また、表やグラフを示すことも有効です。話す調子で原稿を書きましょう。

質問については、原稿は作りません。質問のしかたは通信6を見ましょう。質問で返された相手側の回答も反論に取り入れると効果的です。

次に反論ですが、当然、相手の立論と噛み合っていないではありません。相手の立論を無視して自分たちの意見を述べるだけでは「議論」ではないからです。そのために先ほど立論の根拠を伝えあったのです。相手の立論はどこに問題があり、自分たちの主張の方に妥当性があることを示すことが反論では大切です。（下の例文の二重下線部分）また、データやグラフを示すことも効果的です。

「公立小学校では学校選択制を推進すべきである」という問題に対し、否定の立場から反論を行います。肯定側の方はメリットとして、『子どもの個性にあった学校に行くことができる』とおっしゃり、また先ほどの質問で『優秀な指導者がいる』とお答えでしたが、人の個性は集団の中で形づくられるもので、どのような集団かを予め知って学校を決めるということは現実にはできません。また、先生方にも転勤の制度があり、お目当ての先生がいつまでもその学校に勤めるということはありません。すなわち、どのような指導者と集団の中で過ごすのかは学校を選んだとしても確約されるものではないのです。

それよりも学校の集団と地域のコミュニティが重なり合った中で子どもを育てることには、人格形成に大いにプラスになります。例えば、〇〇〇〇著「地域のコミュニティと子どもの成長」（いろは出版 2010）には、このような統計が示されています・・・・・・・・。

これらにより、学校選択制によるデメリットは、そのメリットよりも上回ると考えられます。よって公立小学校学校選択制には反対です。以上で否定側の反論を終わります。ありがとうございました。」

以上を参考にして 立論と反論の原稿を班で協力して作成しましょう。と同時に 3 本番で示すデータを決めましょう。なお、本番での「立論」の発表者、「反論」の発表者 を決めておきなさい。原稿作りは書記を決め、全員で練り上げましょう。

★ 本番に備えての確認事項です

～対戦方法～ 立論は肯定側が先攻、質問と反論は否定側が先攻

1回 く自らの立場を根拠とともに主張

表 肯定側立論:2分

裏 否定側立論:2分

【作戦タイム】:2分く相手への質問をまとめる

2回 く相手の立論への質問。

表 否定側質問及び肯定側回答:3分

裏 肯定側質問及び否定側回答:3分

【作戦タイム】:2分く反論をまとめる

3回 く相手の立論に対して反論し、自分の側のメリット（デメリット）が勝っていることを念押し

表 否定側反論:3分

裏 肯定側反論:3分

【ノーサイド】:2分く握手・審査集計

* 対戦の形態



* 審判チームは以下のような審判表に評価表に記入

チーム	立論	質問	反論	合計
A (肯定)	点	点	点	点
B (否定)	点	点	点	点
アドバイス				

満点各 10 点 合計 30 点

評価基準：立論：肯定否定の根拠が確かな証拠に基づいており説得力があるか

質問：相手の立論の弱点を突くような内容になっているか

反論：相手の立論に対する反論に説得力があるか

第3のアイデアを考えるチームは以下のような用紙に記入

*記入用紙見本

テーマ 「大阪府は中学校での給食を実施すべきである」
肯定側の根拠 家庭で弁当を用意することが難しいなか、中学生に必要な栄養を摂取すること
肯定側の問題点 アレルギーに対する対策が述べられていなかった
否定側の根拠 アレルギーの対応が煩雑。同じものを食べることの違和感。体格差による量の違い
否定側の問題点 弁当を作りにくい家庭、コンビニ弁当一辺倒への対策があまり現実的ではなかった
両者を融合させた解決案 アレルギーへの対応などから、給食は実施することが望ましいが、アレルギー対応上、考慮すべき食品と生徒を把握し、代替食材を予め生徒と保護者に連絡できる体制を作る、否定的立場では見落とされがちな「弁当」の持つ有意性を失わせないために、「弁当デー」を設け、生徒自身が家族と協力して弁当を持参する日を設ける

この時間はいよいよディベート対戦本番です。

ディベート評価用紙

論題

チーム	立論	質問	反論	合計
A (肯定)	点	点	点	点
B (否定)	点	点	点	点

アドバイス (よかった所 改善すべきところ)

肯定側へ

否定側へ

満点各 10 点 合計 30 点

評価基準：立論 肯定否定の根拠が確かな証拠に基づいており説得力があるか
 質問 相手の立論の弱点を突くような内容になっているか
 反論 相手の立論に対する反論に説得力があるか

組 番 名前

第3のアイデア記入用紙 対戦をよく聞いて記入しなさい。次回、班で協議してよりよいものにまとめます。

次回までに完成させて忘れず持ってきてなさい。

論題

肯定側の根拠

肯定側の根拠の問題点

否定側の根拠

否定側の根拠の問題点

両者を融合させた解決案

■ 探究通信 9 チームで考える ～ ディベート第3のアイデアとは

今日は、前回自分が第3のアイデアを担当したテーマについて、個人が考えたものを班で持ち寄り、一つにまとめます。個人の記入用紙を忘れていないでしょうね。なお、今日の「班」は3～4人の班のことで、講座内で6つの班に分かれます。すなわち、同じテーマを担当する班は2つずつあります。班番号を1～6で決めます。

それでは始めます。

班で協議し、第3のアイデアとして具体的な提案をしてもらいます。「具体的な提案」とは、「肯定か否定か」ということではありません。例えば『中学校での学校給食は是か非か』というテーマなら、是か非かを述べるのではなく、肯定・否定の両方の根拠の良いところを足し算して、現実的な提案をします。

アレルギーへの対応などから、給食は実施することが望ましいが、考慮すべき食品と生徒を把握し、代替食材を予め生徒と保護者に連絡できる体制を作る、否定的立場では見落とされがちな「弁当」の持つ有意性を失わせないために、「弁当日」を設け、生徒自身が家族と協力して弁当を持参する日を設ける。

このように、

「誰にとっても、一定程度我慢するかわりに最大公約数的なメリットが得られる提案」をしましょう。

1時間目

● 個人で考えたアイデアを持ち寄り、班としての第3のアイデアを考え、「ディベート 第3のアイデア 清書用紙」にまとめましょう。

1) 肯定側の根拠、3) 否定側の根拠 はすぐに書けますね。

2) 肯定側の根拠の問題点、4) 肯定側の根拠の問題点 を個人の考えをもとに班で話し合ってみて、書きましょう。

5) 具体的提案 が最も大切です。現実的な提案をまとめましょう。その際、なぜそのような提案が妥当だと思われるのか、根拠（理由）もしっかり書きましょう。

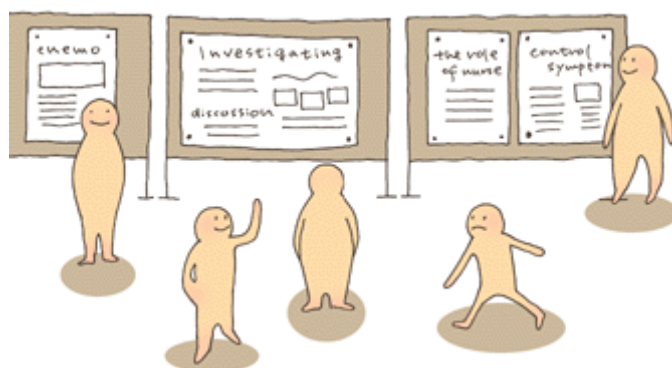
*この「ディベート 第3のアイデア 清書用紙」は、2月の「千里フェスタ」期間中、渡り廊下に掲示します。鉛筆で下書きした後、ペンで清書しなさい。

*時間内に終わらない班は休み時間も続けなさい。

2時間目

● 全ての班の清書が終わった時点で、各班の「ディベート 第3のアイデア 清書用紙」を黒板に掲示します。全員がすべての班の提案を読んで、どの班の提案が最も納得度が高いかを評価用紙に記入して相互審査します。評価用紙を集め、最優秀班を決めます。

● また、前回のディベート本番の結果発表も先生からしてもらいます。



第3のアイデア 評価用紙

組 番 名前
各班に対するコメント（自分の班は除外）
1
2
3
4
5
6
最も優れていると判断した班 と その理由 （自分の班は除外）
_____ 班 理由
「ディベート」をとおして学べたこと

-----組 番 名前-----

■ 探究基礎通信 10 課題の発見 ～ 課題はどのように設定するのか

ディベートにはしっかり取り組みましたか。ディベートは課題（例えば外国人労働者の受け入れ）に対し、「是か非か」（例えば労働力確保・多文化共生と文化的衝突）を根拠に基づいて説得する取り組みでした。それに続く第3のアイデアの取り組みは肯定否定、それぞれの長所・短所を見極めて「どうすればよりよくなるのか」を考える取り組みでした。ディベートでは課題が与えられていましたが、ここからは自分で課題を設定し、解決のためのアイデアへとつなげていきます。

課題解決力の向上をめざし、2年生の「探究」では個人ないし2人のチームで課題に取り組み、肯定否定両者の長所・短所を知ったうえで安易でない現実的な解決案を論文とプレゼンテーションで提示するという取り組みを行います。ディベートから第3のアイデアへの流れをひとりひとりで取り組むこととなります。

ところで、課題解決のアイデアですが、例えば「森林破壊を防ぐためエビの養殖はやめるべきだ」という主張は現実的でしょうか。エビの養殖をやめると一匹数百円であった車エビが数千円に値上がりし、また養殖業に携わる人の職を奪います。「過酷な労働によって生産される安価なアパレル製品を買わない運動を起こそう」というのも一面的です。一着5000円のTシャツばかりを高校生が買えますか。原発全廃を主張するだけでは、発電のコストをどう抑えるのか、原発に従事する人の雇用をどうするのか、という現実の問題には応えできていません。

私たちを取り巻く課題に対しては、肯定・否定様々な意見があります。そのどちらをも理解し、その先にあるさらにより良い解決案を出せるよう取り組むことが大切です。10月に学習した「探究基礎通信2」をもう一度見てください。

「課題の原因を探り、解決のための様々なアイデア(仮説)を立て、それが有効か否かの検証を繰り返し、現実的で効果的な解決案を導き出す」ということであり、「どのように取り組むか」の内容です。と書いてあります。

- なぜそのような問題が起きるのか（例えば、なぜヨーロッパへの難民が増えたのか）
- どのような意見が出ているのか（例えば、受け入れに積極的なドイツ政府＝肯定、と消極的なその他の国の政府＝否定、の考えの違いや難民当事者、専門家の意見）
- さまざまな意見を踏まえ、解決のためのより良いアイデアとはどのようなものか
- アイデアは適切なものか検証する http://www.fujitv.co.jp/minnanonews/fukabori_1509.html



そこで、「探究基礎通信2」でも少しだけ取り組みましたが、これから探究基礎最終回までは2年生の「探究」学習の過程をシミュレーションしていきます。 1)課題を見つけその原因を知る、 2)課題に関する知識と、どのような意見が出されているかを知る 3)解決に向けてのアイデアを考える 4) アイデア

アを検証し実現性を高める という過程を、個人ではなくグループ活動を中心に取り組んでいきましょう。

まず 1)課題を見つけその原因を知る のうち、「課題を見つける」から始めましょう。いきなりグループで取り組むのではなく、まず個人で準備をします。課題を見つける指標となるのが「探究基礎通信 1」で確認した「SDGs」です。これは17のゴールでまとめられています。このうち、どのゴールから課題を作るのか。まずそれを個人で選びます。



抽象的なので、具体的に絞る必要があります。例えば4の、「質の高い教育をみんなに」をベースに考えましょう。学校教育を受けられず、どの地域で、どのような労働に、どれほどの子どもが、どのような理由で労働に携わっているのかを知ったうえで、具体的な課題にしなければなりません。例えば「フィリピンの児童労働を減らすための教育支援とは」等のようにです。

また、5の「ジェンダー平等を実現しよう」では雇用ではどのような差別があり、現状や改善策はどうかを知ったうえで、「出産後の女性の職場復帰を円滑にするにはどうすればよいのか」という課題を設定することができます。もう知っているでしょうが「探究基礎通信 2」で確認したように、**課題は疑問文で表現します。**

個人で、17のゴールのうち、どれを使うかを決め、上の例のように具体的な疑問文の課題に発展させてみましょう。そのあと4人のグループを作り、誰の課題が研究を進めやすいかを話し合い、1つに絞ります。

就労している児童、児童労働、危険・有害労働に従事している子どもの地域別推移 (2000~2012)

地域	就労している児童		児童労働		危険・有害労働に従事している子ども	
		%		%		%
アジア太平洋	129,358	15.5	77,723	9.3	33,850	4.1
中南米カリブ	17,843	12.5	12,505	8.8	9,638	6.8
サハラ以南アフリカ	83,570	30.3	59,031	21.4	28,767	10.4
中東・アフリカ北部	13,307	12.1	9,244	8.4	5,224	4.7

単位: 1000人(世界の5~17歳の子どもに対して占める割合)

2.グループの取り組み（2 時間目）

1)4 人のチームに分かれます。

2)役割を決めます。司会・書記・第 1 発言者・第 2 発言者 の 4 役です。

3)4 人の「1.個人の取り組み」を互いに回し読みし、誰の課題文が最も良いかを理由とともに発言し、決定します。

- ・司会が進めます。第 1 発言者→第 2 発言者→書記→司会の順番に発言を繰り返し、1 つを決定します。書記の仕事はまだありません。

4)マグネットシート・マーカー・イレーザを受け取ります。

5)書記がマグネットシートに記入欄を書き入れます。（縦に置く）

6)「研究する意義」を話し合い、書記が記入します。

- ・第 1 発言者・第 2 発言者・書記・司会の順番で発言を繰り返しかえます。発言内容は書記が整理して箇条書きでマグネットシートに記入します。

例：「出産後の女性の職場復帰を円滑にするにはどうすればよいのか」なら、

- ・出産後、元の職場に戻り、元の役職に戻りたくても戻れず離職してしまうという女性が多い。このような状況は改善しなければならない。
- ・現政権は女性が活躍できる社会を目指しており、日本の社会として重要な課題である。

7)「研究するうえで調べなければならない情報」を話し合い、書記が記入します。第 1 発言者・第 2 発言者・書記・司会の順番で発言します。発言内容は書記が整理して箇条書きでマグネットシートに記入します。

例：「フィリピンの児童労働を減らすための教育支援とは」なら、

- ・フィリピンの児童労働のデータ（人数、労働内容、地域による違いなど）
- ・フィリピンの就学率 ・親の意識 ・政府の施策 ・海外からの援助

8)プレゼンテーション（終わり 15 分）

記入を終えたマグネットシートを黒板に貼り、チームから 1～2 人が前に出て記載内容をプレゼンテーションします（2 分程度）。全チーム終了後、優秀チームを決めます。

■ プレゼンテーション基本パターン（これ以上に豊かな表現を求めること）

私たちのチームの課題は「.....」です。

この課題の解決を考える意義は次のような点です。まず「.....」です。次に

「.....」です。更に「.....」です。

また、課題の解決に必要な情報は、まず、「.....」です。次に「.....」

です。更に「.....」です。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

9)相互評価 優秀チームを決めます。

評価ポイント：1)課題、意義、必要な情報が納得できる、2)棒読みでなく、豊かな表現である。

3)シートが読みやすい

シートに記入した内容を写しておきなさい。

班員名
ゴールの番号
課題文
研究する意義
研究するうえで調べなければならない情報

原則の番号_____

課題文

研究する意義

研究するうえで調べなければならない情報

相互評価のための記録表（自分のチームは除外：斜線を引く）チーム番号は発表順 各項目5点満点

	1	2	3	4	5
内容	点				
表現					
シート					
合計					

これからの取り組み（2回4時間）：

前回プレゼンテーションした課題に対する解決案を次の順序で考える

- 1 情報を手に入れ、取捨選択する。（本日）
- 2 情報をもとに解決の仮説を立てる。（個人→チーム）（本日から次回）
- 3 仮説が有効であることの根拠をまとめる。（次回）

1 情報を手に入れる

解決案といっても、世界レベルでの難問に対してわずか2時間で解決案を導き出すことはほぼ不可能です。大きな課題を、なんとか手に負えるレベルにまで下げて、対象を絞ることで解決案の糸口を掴むことができるかもしれません。

例えば、「フィリピンの児童労働」というのはとても大きな課題です。フィリピンで労働に従事している子どもは数百万人いるといわれています。生命を危険に晒すような仕事を強制されている子どもも多くいます。このように膨大かつ深刻な対象は残念ながら短期間では手に負えません。その中で農業に従事し、学校での教育が十分でない子どもの層があります。例えばこの層に焦点を当て、学校教育が十分に受けられるようにするアイデアの一端を考えるならば手に負えるかもしれません。手に負える範囲に対象を絞るということが必要です。



金の採掘

http://www.huffingtonpost.jp/human-rights-watch-japan/philippines-child-labor_b_8236218.html

また、確かな情報を手に入れ、それをもとにアイデアを構築する必要があります。「学校に行けない子どものために学校を建てる」というアイデアを出したとしても、学校はすでにあるのだが、稼ぎの担い手として行かせてもらえないという状況があるのなら、このアイデアは有効ではありません。家の収入源である農業に従事し、十分に学校教育を受けられていない子どもはどれだけいるのか、その理由はなにか、親の意識は、政府の対策は、NGOはどのような活動を行っているのか、海外からの援助は、日本にしながらできることはあるのか等の情報を得たうえでアイデアを立てなければなりません。

もし、子どもに学校教育を受けさせることへの意識が乏しいならば、政府・NGO・教育機関と協力した親の意識を変える活動というアイデアに結びつくかもしれません。情報を十分に得たうえで取捨選択し、アイデアに結び付けましょう。

ただ、やみくもに情報を集めるのではなく、解決のアイデアをある程度予想したうえで情報を探ることが効率的です。まず個人で取り組み、チームに持ち寄りましょう。

1時間目

活動1 (個人の取り組み) 個人で解決のアイデア案を考え、そのうえで情報検索をする。20分
席は移動せず、個人単位で自分のチームの課題に対する解決案を考え、情報を探す。(シート1)

課題

今考えられる解決のためのアイデア

情報記入欄 (サイト名やアドレスを記録しておくこと)

*アイデアが有効であることが情報から証明できることが大切

活動2 チームで集まり、個人が考えた解決のためのアイデアと関連する情報を報告しあう。(10分)

- マグネットシートを先生から受け取り、箇条書きにしていく。横に4等分。
- アイデアと関連する情報の要約を全員が書いてから、1分ずつ説明する。

「情報の要約」とは、例えば…

「学校での勉強より家の農業の仕事をするのが重要と考える親が64%である」など。

名前 アイデア 情報の要約	名前 アイデア 情報の要約
名前 アイデア 情報の要約	名前 アイデア 情報の要約

マグネットシート

2時間目

活動3 チーム内の4つのアイデアと情報を全員で検討、取捨選択し、チームのアイデア最終案としてまとめる。(30分)

- 役割分担 司会 書記 第1発言者 第2発言者
- 書記は記録用紙を先生から受け取り、発言のメモを取りアイデア最終案を文章化する。

発言メモ
情報 アイデア最終案

《記録用紙》

- 第1発言者 → 第2発言者 → 書記 → 司会 の順番で繰り返し発言
発言例：「私は〇〇さんのアイデアが……という点で優れていると思います。理由は……です。また、△△さんのアイデアも……という点でよいと思います。ですからこれらを融合して……という解決案にまとめるのが良いと思います。また、情報は〇〇さんの……という情報が使えると思います。」
- 全員が発言し、アイデア最終案の方向が見えてきたところで司会がまとめる。
発言例：「皆さんの意見をまとめ、……というのをこのチームのアイデア最終案にします。よろしいですか。」(アイデアは複数あってもよい。最大3点)
- 決定したアイデア最終案にふさわしい情報を選ぶ(3点ほど)。書記はその情報を記録用紙に写す。

- マグネットシートを一旦消して、書記が最終案と必要な情報を書き写す。(縦置き)

班員名
課題
情報
アイデア
1
2

《マグネットシート》

活動4 プレゼンテーション(10分)

ホワイトシートを全チーム分黒板に貼り、各班1分ずつプレゼンテーション

発言例：「私たちのチームの課題と解決のアイデアをプレゼンテーションします。課題は.....です。この課題に関して、以下のようなことがわかります(情報について説明する)。この課題を解決するために次のような仮説を立てました。まず、.....です。次に.....です。以上で終わります。」

- * 今回の発表では、なぜそのアイデアが有効なのかという根拠(理由)は伝えきってはいません。次回のチーム活動では「根拠」を文章化します。今回は優秀班の選出はありません。

今回は「課題」に対する「改善のためのアイデア」を考えました。ところがそのアイデアはまだ絞り込みが足らず、具体的ではないのではないのでしょうか。フィリピンの、学校に行けない子どもたちの問題を取り上げたとします。「学校の設備を充実させるよりも、親の意識を変えていく対策が必要」というアイデアを考えついたとしても、それは具体案ではありません。アイデアからは、さらにたくさんの課題が生まれます。以下の「→」のものがそれです。そしてその課題に対する解決のアイデアが一つ一つ必要です。(★)のもので、細かな課題とそれに対応するアイデアを考えだすことが「考察」です。

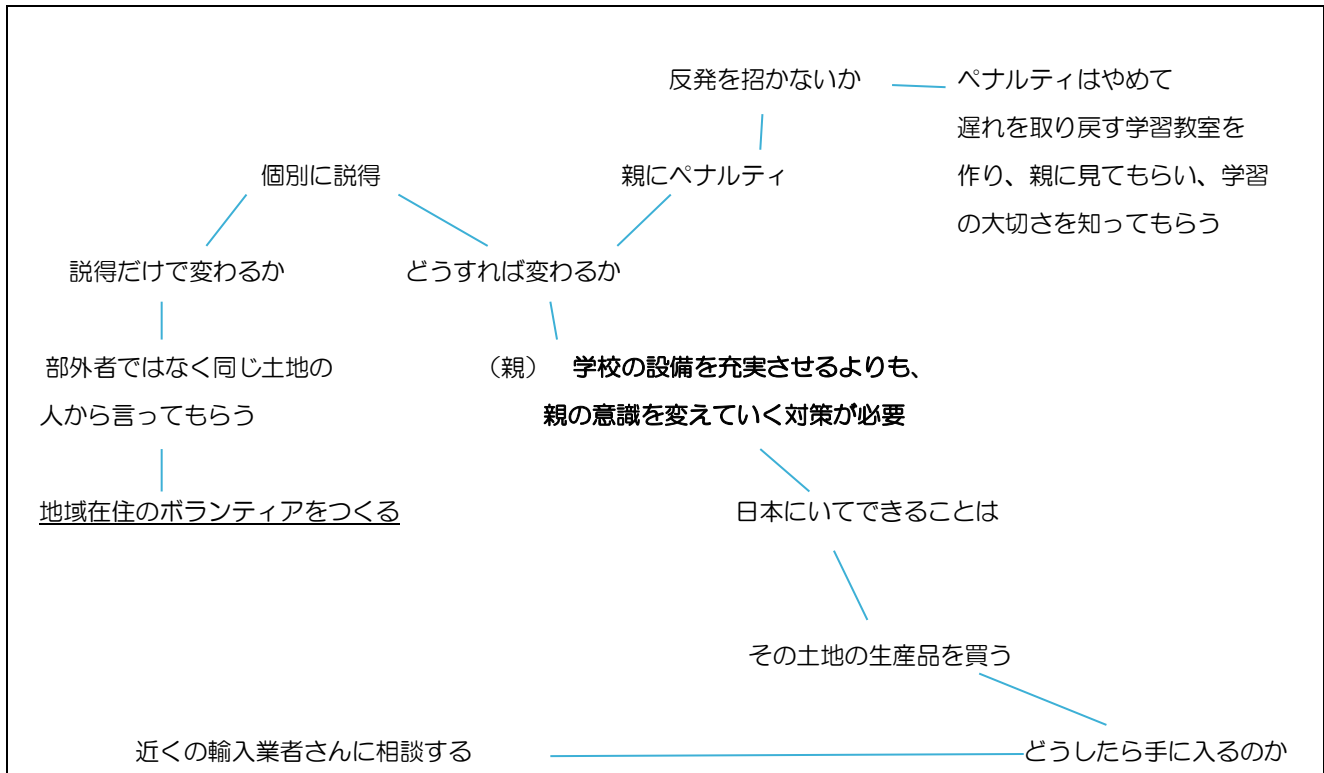
- 例 →どうすれば親の（大人の）意識を変えられるのか
- ★個別に学校教育の大切さを説明する必要がある
- 説明だけで意識は変わるのか
- ★学校に行かせない親に何らかのペナルティが必要
- ペナルティでは親の反発を招かないか
- ★子どもの登校状況を頻繁にチェックし、こまめな対話が必要
- こまめに対応できるのはだれか
- ★NGO団体
- 具体的な活動内容は
- ★親に対する啓発活動 学習の遅れを取り戻す活動 農村の中に就学支援を進める人材を作る
- NGO団体への支援は
- ★募金活動 学生の活動参加

★のような細かなアイデアが思い浮かんでも、さらにそれが課題を生み出します。例えば「学習の遅れを取り戻す活動」といっても、子どもを学校にやらない親がそのような活動に子どもを行かせるのか。また、どのような場所でどうすれば子どもは来るのか、などの新たな課題が生まれます。つまり、課題と解決のためのアイデアは無限に繰り返されて行くのです。きりが無いのですが、少しでも納得の得られるようなアイデアにするために考察を深めなければなりません。

4人のチームで集まり相談して、前回提案した「アイデア」から1つを選びましょう。選んだアイデアについてそれが有効である「根拠」を考えます。そのための方法として、中学校で体験した人がいるかもしれませんが、「思考マップ」という方法を使います。これは次のように進めます。

- マグネットシートを横置きにして中央に自分の班のアイデアを一つ書きます（課題ではありません。間違わないように）。
- そこからどの方向に伸ばしても構いませんから、アイデアが含む問題点や、さらに具体的なアイデアを思いつくままに書き足していきます。
- 新しく書いたものと元のは線で結びます。

思考マップ 例



*疑問でもアイデアでも何でも構いません。元の文(親)から連想される事柄(子)をどんどん線(腕)を伸ばして書き足して行きます。実際にするときはこの例よりももっとたくさん腕を伸ばし子を書きましよう。

この作業をグループ全員で行います。全員が参加できるように、「ひとり5つは書きましよう」とノルマを課すのもよいでしょう。

シートがほぼ埋まってくると、最初のアイデアがより具体的・現実的になっているはず。たとえば上の例の、下線部分を使うと「親の意識を変える対策」が「地域在住のボランティアの人が親に学校の大切さを話す」というより具体的なものになります。

それでは始めます。役割分担はありませんが、ノルマを設定しなさい。(1人5つは書く等)中央にアイデアを書きましよう。無駄話をしてはいけません。思いついた人がどんどん腕と子を書き足していきましよう。(20分)

シートが埋まってきたら、出発のアイデアより具体的で現実的なアイデアを皆で話し合って確定し、赤で書きましよう。(10分)。

ここからは「アイデア」の理由です。思考マップを使って考えた「アイデア」がなぜ有効なのかの理由付けです。数学でも「三角形の内角の和は180度です。」という結果よりも理由を証明することのほうが大切です。「アイデア」も同じで、なぜ有効なのかを証明できないと説得力を持ちません。「フィリピン農村部における児童労働を減らすには」という課題に対する解決へのアイデアを「学校の設備を充実させるよりも、親の意識を変えていく対策が必要」と立てたとするならば、なぜそのアイデアが良いと判断したのか。その根拠が必要です。

また、根拠のもととなるのは「情報」です。この情報はインターネットなどから得られるものですが、できるだけ具体的な数字が含まれる表やグラフを引用しながら、次の例のように数学の証明問題に答えるつもりで「根拠」を文章化しましよう。まず個人で枠の中に記入し、そのあとチーム内で意見交換しましよう。

文章化例

「〜〜という資料から△△村では、子どもには学校よりも農作業を優先させるのが当たり前であると考えている親（大人）が58%、また〜〜という資料から、それが親孝行であるという意識を持っている親（大人）が68%であることがわかる。このことから子どもが学校に行かない（行けない）第1の理由は学校施設や教育行政にあるのではなく、親の考え方にあることがわかる。よって親の意識を変えることが、学校の施設を整えるよりも必要だと判断される。」（〜〜の部分には、例えば〇〇〇大学××研究室による2010年のフィリピン□□県△△村での調査、というような資料名を書く）

資料名もはっきり書いておきなさい。

個人で考える

課題「

」

根拠「

」というアイデアが
有効な理由

チームで意見交換してまとめる。

今回はプレゼンテーションは行いません。次回はアイデアとその根拠をマグネットシートに記入し、プレゼンテーションを行います。

■ 探究基礎通信 13 課題の解決へ向けて ～ プレゼンテーション

今回は、「思考マップ」を使ってより具体的なアイデアとその根拠を考えました。
今回は、それをプレゼンテーションで伝えます。相互評価し優秀チームを決めます。

チームに分かれましょう。

1 時間目

取り組み 1 シート・マーカー・イレーザを受け取り、シートを縦置きにして以下のように課題と見出しを書きなさい。(15分)

課題
アイデア
その根拠（具体的なデータがあるとよい）

書き方の注意

- ・細かく書くとプレゼンテーションの時に見えません。少し離れて見て確認しましょう。
- ・根拠については簡潔に書き、細かな内容はプレゼンテーションの中で話しましょう。

取り組み 2 プレゼンテーションの読み原稿を作る（1時間目が終わるまで）

プレゼンテーションは5分以内です。プレゼンテーション例は以下の通りです。

「私たちは『フィリピンの農村部で児童労働に携わる子どもたちにどうすれば学校教育を受けさせることができるのか』という課題について、その解決案と根拠をお話します。

児童労働で学校に行くことのできない子どものいる地域の中に住んでいる方にボランティアになってもらい、子どもを学校に行かせていない親に話をしてもらおうというアイデアです。その根拠について話します。たとえ部外者のボランティアが子どもを学校へ行かせることを勧めても、地域の外の、事情を知らない者の意見にはなかなか耳を貸さないかもしれません。家庭の事情もある程度理解している知り合いならば耳を傾けるでしょう。ただ話をしてもらった主な内容は子どもを労働力と考えることにも理解を示す一方、教育を受けさせることが子どもの将来に貧困を引き

ずらない方法であるということも伝えなければいけません。また、地域の人にボランティアをしてもらうためには、NGOが足しげく地域に通い、直接啓発活動をするとともに、学校教育の重要性を理解する人を見つける必要があるでしょう。

これで私たちの発表を終わります。ありがとうございました。」

！読み原稿を作りますが、話をするとおりに書いては時間が足りないので、「ですます調」ではなく、簡潔にまとめて、発表時に上の例のように話しましょう。

- 読み上げ原稿作成の役割分担をします。進行・書記（原稿を書く）・発表者1・発表者2
- 原稿用紙を受け取りなさい。
- 進行役を中心にアイデアとその効果をどのように文章にまとめるか、全員で意見を出し合いなさい。書記が原稿用紙に記入しなさい。
- 発表者は2人ですが、3人以上で発表してもかまいません。
- 原稿ができたならプレゼンテーションの練習をしなさい。
- プレゼンテーションの順番を決めます。

2時間目

取り組み ③ プレゼンテーションと相互評価

発表者の方向に机を向けなさい。プレゼンテーションを始めます。プレゼンは5分以内です。シートを黒板に貼りつけてから始めましょう。聞き終わったら評価用紙を記入します。

■ 評価項目は 「内容」と「表現」の2点です。

「内容」は、課題が適切か アイデアとその根拠に説得力があるか という観点で

「表現」は、棒読みになっていないか わかりやすい説明か という観点で

それぞれ5点満点でつけましょう。平均は3点です。

- 評価用紙に「チーム」の欄に発表順に1～5を記入しなさい。（自分のチームはとばす）

チーム	内容点	表現点	合計	

-----切り取り-----

チーム	内容点	表現点	合計	

-----切り取り-----

チーム	内容点	表現点	合計	

-----切り取り-----

チーム	内容点	表現点	合計	

探究 レポートを書くために <引用のルール> と <参考文献・引用文献の示し方>

書物やウェブサイトからの引用の仕方を伝えます。また、情報を記録する時は、調べた書物・サイトの出所を必ず書きこんでおきなさい。忘れると後でもう一度探さなくてはならなくなり面倒です。

1. 引用のルール

自分の考えた「答え」の「根拠」を書くうえで重要になるのが引用です。引用をして情報の出所を示すことで、その情報が信頼できるものだとすることをアピールします。

①直接引用:「 」を使う方法 ▶引用箇所が短い場合に使う。

「 」で抜き出す場合は、引用した文章と一字一句変えてはいけません。

(例 1)石黒 (2008) は、日本語の文章で接続詞が使われる頻度は「日本人学生は三～四割、留学生は二、三割」(P.196) と述べている。私はこの見解に疑問を抱く。

このように、筆者名と参照した本の発行年、ページも記入します。

②間接引用:要約して引用する方法 ▶引用箇所が長い場合に使う。

(例 2)山田 (1992) は、果樹栽培が行われた理由を、平地が乏しいというF市の自然状況によるものであると述べている。これに対して、新井(1998) は、F市の漁業者の約半数が果樹栽培に転業したことを指摘している。これらの研究成果から、私はF市のケースを次のように判断する。

このように、筆者名と参照した本の発行年を記入します。「～と述べている」のような表現を使って、自分の意見や文章ではないことを明確にしましょう。

- ▶ 引用は、自分の「答え」に説得力を持たせるために使うものです。
- ▶ 文字数を増やすために引用しただけ、何となく引用しただけ…で終わってしまってはいけません。引用したあとには必ず、それに対する自分の考えを書かなければなりません。
- ▶ 引用した文章を、さも自分が書いた文章のように、コピー&ペーストするのは犯罪です。

次のページ >>>2. 参考文献と引用文献の示し方

2. 参考文献と引用文献の示し方

レポートの最後に必ず参考文献(引用文献)を明記します。

書く順序や区切り方は幾つかやり方がありますが、必要な情報は共通しています。

①本の場合

著者・編者(刊行年)『本のタイトル』出版社

(例 3) 井上純一 (1986) 『文化と意思』 晃洋書房

- ・ 刊行年は()、本のタイトルには『 』を使います。
- ・ 著者の場合は名前だけ、編者の場合は名前の後に「編」と書きます。

訳書の場合は

著者(※姓, 名の順)(刊行年)『本のタイトル』(訳者)出版社

(例 4) ゴッフマン, E (1986) 『儀礼としての相互行為—対面行動の社会学』 (広瀬英彦・安江孝司訳) 法政大学出版局

②ウェブサイトの場合

ウェブページの作成者・「ウェブページのタイトル」・〈URL〉・(アクセスした日付)

(例 5) 財務省 「財務省について」 〈http://www.mof.go.jp/about_mof/introduction/index.htm〉
1) (2012/10/08 アクセス)

- ・ 作成者がわからない場合は、作成者を省いても構いません。
- ・ ウェブページの場合、削除されたり移動したりすることがあります。かならずアクセスした日付を書いておいてください。さらに、資料をプリントアウトするなどして保存しておきましょう。

発行者：
〒565-0861
大阪府吹田市高野台 2-17-1
大阪府立千里高等学校

発行日：
2019年3月1日